

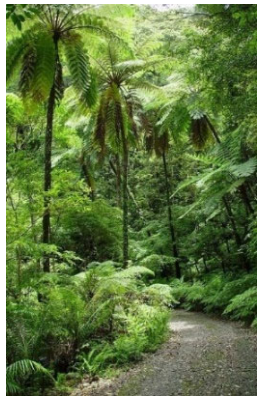
世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の特徴

生物多様性保全上重要な地域

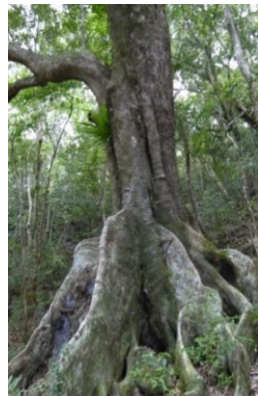
「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、世界的に貴重な固有種や絶滅危惧種が数多く生息・生育しており、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性保全上重要な地域である。

1,819種の維管束植物（日本全体の26%）、21種の陸生哺乳類(同19%)、394種の鳥類（同62%）、267種の陸水性魚類（同68%）、36種の陸生爬虫類（同50%）、21種の両生類（同28%）が生息・生育しており、日本全体の動植物種数に対して大きな割合を占めるとともに、日本の脊椎動物における国際的な絶滅危惧種の36%が生息しており、多様で貴重な動植物が生息・生育する重要な地域となっている。

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の景観



ヒカゲヘゴ(奄美大島)



オキナワウラジロガシ(徳之島)



沖縄島北部国有林の景観(沖縄島北部)

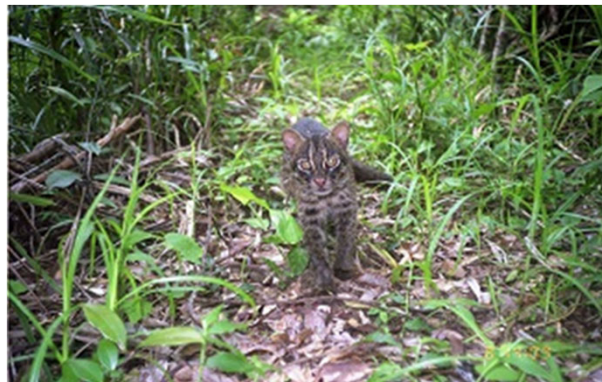


大富展望所からの眺望(西表島)

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島固有の生物



アマミノクロウサギ



イリオモテヤマネコ



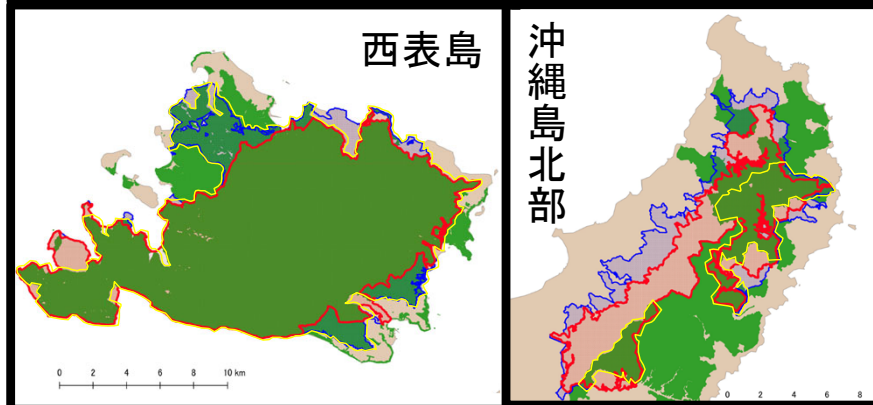
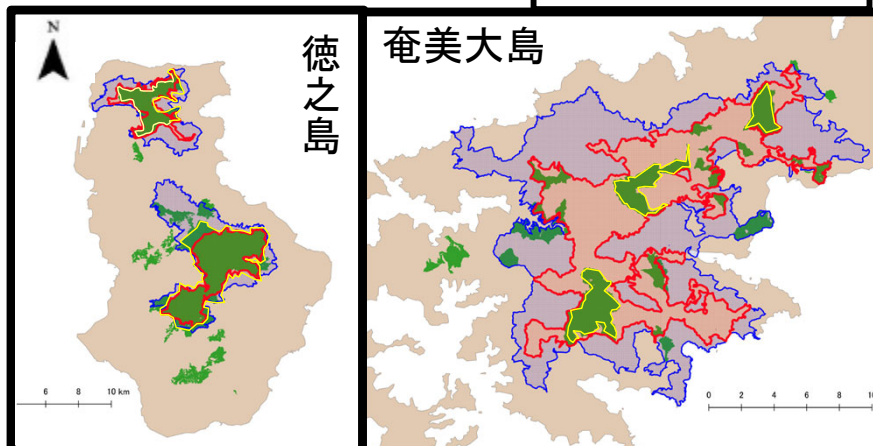
ヤンバルクイナ

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」における林野庁の取組

- 奄美大島及び徳之島については、平成25年3月に「奄美群島森林生態系保護地域」を、沖縄島北部については、平成29年12月に「やんばる森林生態系保護地域」を、西表島については平成3年3月に「西表島森林生態系保護地域」を設定。
- 希少な野生生物を保護するため、「森林生態系保護地域保全管理計画」に基づき、希少な野生生物保護のための取組、希少な樹木、植物のモニタリング調査、外来種対策等を行っています。

世界自然遺産地域及び緩衝地帯と国有林野 (森林生態系保護地域)

凡 例	
■	世界自然遺産地域
■	緩衝地帯
■	国有林野
■	森林生態系保護地域



希少な野生生物の保護

- ・ 林道の通行を教育や研究目的、ガイド付きのツアーで入林する場合に限定。保護と利用の調整への取組。



エコツアーガイド連絡協議会が行うガイド付きツアー（徳之島）
(写真提供：NPO法人徳之島虹の会)

希少野生生物のモニタリング

- ・ 生育状況や生育環境についてモニタリング調査を継続して実施



仲間川のマングローブ林
(西表島)

外来種対策



ギンネムの除去（西表島）



ニッパヤシ（西表島）

国の天然記念物に指定